

第 38 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

医療事故調査制度については、多くの高度な手術を行っている高度急性期・急性期病院であることを踏まえ、当該制度を正しく職員が理解するとともに、制度に対応した体制や判断基準が取られているのかを改めて確認いただきたい。

中央市民病院では先端医療センター病院統合後に CT や MRI の件数がかかなり増加しているが、検査は必要性を考慮して行われているか、読影する医師の負担が増えていないかも確認し、読影率も意識して取り組んでいただきたい。

法人の自己評価については特に異論はなく、事業報告書概要版も見やすく評価できる。しかし、一方でアピール重視になっているため、各病院の課題が見えてこない。今後はそれぞれの病院の課題とそれに対する取り組み状況が見えるようにしていただきたい。

今回の評価については特に異論ない。既に高い水準にある部分を更に評価することは難しいので、今後は評価方法についても傾斜配分などの検討が必要になるのではないかと。また、病院機能評価などの第三者評価を使う評価方法も検討してはどうか。

中央市民病院は臨床研究推進センターの設立など、臨床研究中核病院に向けた取り組みを開始した点は評価できるが、必要な体制としてはまだ不十分な点も多い。各種審査委員会の体制や知的財産の管理など、今後どのように段階を踏んで体制を整えていくのかを検討しながら進めて行く必要がある。

評価について異論はない。アイセンター病院は赤字ではあるものの、開院当初から 4 カ月という期間において、ほぼ計画通りの収入を達成したことは、当初の計画設定と開院後の運営との両面から高く評価できる。

中央市民病院は黒字化を達成しているが、既に高単価、高利用率の収益構造となっており、単価や病床利用率の少しの低下で赤字となる可能性がある。これまで以上に診療科別の収支や投資効果をきめ細かくみていく必要がある。

西市民病院は入院単価が頭打ちしている状況や、周辺地域の傾向を踏まえると、病床のあり方の検討が必要な段階に来ているのではないかと。

西神戸医療センターは黒字化しているが、黒字化の要因は賃料の減少や独法化による効果が大きいため、効果は一時的な面もあり、引き続き予断を許さない状況にある。

今後、4 病院それぞれが自立し、状況に応じて補完しながら機構全体で経営を行う必要があると言える。